

H30年度（2018年度）活動実績

はじめに 「豊島棚田くらぶ」としての活動は5年目となり、初めての活動体験者の参加が十数人となるなど活動の輪も徐々に広がっている。年間活動回数は21回、延参加者数191人の協力を得ることができた。年間の活動、出来事の概要は以下のとおりである。

1. **棚田の保全・景観** 最上段畑、三角地畑を含み棚田および田んぼは年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。ただレンコン畑はイノシシ被害にあい全滅し水面が見える池の状態となっている。ここ数年の懸案となっていた当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りを実施し、「唐櫃の清水」からの棚田の景観確保をすることができた。なお作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

2. 主な作物栽培

(1) **稲作** 6月に田植え、7～8月の草取りは例年2週間毎に3回実施しているが、今年は非常な暑さのため1回の実施となった。雑草を取り切れなかったこと、昨年レンゲの種まきをしなかったこと、また日照不足などもあり香川県の作況指数はやや不良の96となった背景もあるのか、収穫量は昨年の225kgから大幅に減少し、145kgであった。なお、10月の稲刈り時には刈り取った後にレンゲの種まきを実施している。

(2) **蕎麦** 昨年と同じ作付畑に、種まきも昨年と同様に筋まきとし、刈取り作業を効率化した。しかし、収穫量は昨年のほぼ半分の玄蕎麦14kgほどの収穫にとどまった（蕎麦粉にして9kg）。一見、見た目は花蕾はたくさんあるようであったが、実際の実は少なかった。蕎麦栽培にも多少の肥料が必要なようであり、次年度は適宜の施肥を試すこととする。

(3) **小麦** 前年に種まきをしていた小麦（香川県のブランド品種“さぬきの夢2009”）が22kgが収穫できた（小麦粉にして16kg）。また11月には最上段畑に収穫を目指す種蒔き、また中段畑2枚に冬～春季の緑化のための種まきをした。

(4) **レンコン** 電気柵の隙間から侵入したと思われるイノシシに全て食べられ、その後全く一本の新芽も出てくることなく全滅となった。景観確保のためにも再度の栽培を目指す。

(5) **花の栽培** マリーゴールド、ひまわり、菜の

花、スイセン、バラ、彼岸花など。特に六角庵前の三角地畑は入念な手入れが行き届き、また最上段畑にはスイセン群が定着し季節感のある景観が得られている。彼岸花は次年度以降、棚田の畔の各所に移植し秋の棚田の景観に一役担うことができるようにする。

(6) **その他作物** 枝豆、マクワウリ、ジャガイモ、サトイモなど栽培。特にジャガイモはコンテナに10杯ほどの大収穫であった。

3. **豊島の活動回数、参加者数** 年度計画の主要活動である田植え、稲刈り作業や収穫祭など、また神子ヶ浜棚田の草刈りも加わり活動回数21回となり、延参加者数は191人となった。なお年度当初の正会員は65人、賛助会員は3個人、4法人である。

4. その他特記事項

(1) **収穫物の販売** 会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。販売量：蕎麦粉5kg、小麦粉14kg。

(2) **水路補修** 前年度から懸案となっていた田んぼ山側の水路補修のため、土嚢袋の設置をした。しかしながら、まだ計画の1/3ほどが未設置となっているため、更なる努力が必要である。

(3) **収穫祭他** 12月に収穫祭を開催した。収穫した蕎麦で蕎麦すいとん、蕎麦お好み焼きを楽しむことができた。また4月に懇親会、2月に新年会などを開催し意見交換の場とした。

(4) **イノシシ対策防護柵の設置** 当くらぶの棚田を含み唐櫃丘の棚田の一面を地元島民とともにイノシシ対策防護柵を設置した。高さ1.2m×幅2mの鉄製網目柵／1枚を約300枚設置。個々の地主毎に柵を設置するのではなく、まとまった棚田一区画全体の防護柵を設置しようとする豊島のモデルケースとして設置したものである。従来の電気柵は大きく成長する雑草が柵（電線）に触れないよう、頻繁に草刈りが必要であるが、今回設置した柵は雑草が鉄製網目柵に触れても問題がないため、大幅に草刈り作業を減らすことができた。

(5) 六角庵の再生・整備

六角庵の再生計画が動きだし、今年度は倉庫と車庫の新設があった（当くらぶは地元の「チー夢豊島」所有の六角庵を活動拠点として借用しています）。整備作業など適宜相応の協力をしていく。